

露

鈴木 漠

絵／石阪 春生

露 といえば

はかないものの喻え

露の世 露のいのちなどは常套句だろう

だが 見よ

朝日の昇る前のくさむらで

清淨無垢に凝る露の玉を

一顆の露には

風景のすべてが映つてもいるのだ
非命によつて

幼い子を天に召された母親の

または 母父を喪った少年の

まなじりに溢れ出る涙の粒

その悲しみの器

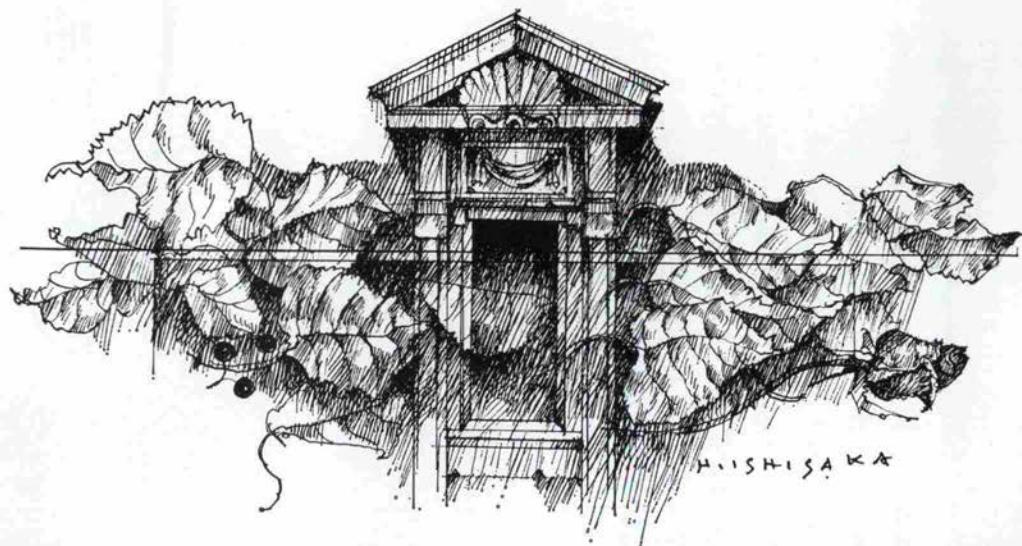
一滴の涙には

人生のすべてが滲んでもいるのだ

想像せよ

広大無辺の宇宙を宿す

露の奇跡を



よみがえれ美しい神戸



共に歩いて いきましょう

落合 恵子 （作家）

「書棚はほとんど倒れています。神戸在住のスタッフとは連絡がとれません」

東京で暮らす私の一月十七日の朝は、そんな電話で破られた。

電話をかけてきたのは、大阪江坂で五年前にオーパンした子どもの本の専門店クレヨンハウスの責任者である女性である。彼女は奈良に住んでいて、どうにか店まで辿り着いたが、どうしていいかもわからないまま電話をしてきたのだった。

東京の私たちにわかっていることといえば、とにかく酷いことが起きてしまった、ということだけだった。

神戸在住のスタッフが無事であったことがわかつたのは、二日後のこと。

「しばらく店は閉めましょうか」

「食べて泣く子の前で、文学は何が可能か……。サルトルのそんな言葉が頭をよぎる瞬間があった。こんな時に、本がなんになるのか、と。しかし私たちには、店を開け続けた。東京店も大阪店も、書店業務は開店休業状態。私たちのささやかな呼びかけに応じて、お客様が次々に運びこんでくれる支援物資を種類ごとに分類し、代送する作業が私たちの仕事になった。作業は二か月近く続いた。

「この作業を通して、私たちはほんの少し落ち書きを取り戻すことができたような気がする。それが、自発的に、いま自分に何ができるかを考え、実行している姿に接することができて嬉しい」

△おちあい・けいこ△ 執筆と並行して東京青山と大阪江坂に、子どもの本の専門店クレヨンハウスと女性の本の専門店ミズ・クレヨンハウス主宰。月刊「子ども論」、「音楽広場」発行人。最近の主な著書として、「あなたの庭では遊ばない」、「誰と暮らす」、「生命(いのち)の感受性」、「五〇歳、わが家の戦後」(佐高信氏との対談)など。週刊「金曜日」編集委員。



しかし、すべてはこれから。

それぞれの「いま」の中で、それぞれの私たちには、「私に何ができるか」を、これからも問い合わせていかなければならない。ここ数年語られてきた市民のネットワークの意味と内容を、言葉を越えて、より確かな行動にするためにも。これからは特にセラピーの視点を、いかに現実の暮らしへ生かしていくかも大事なテーマになるだろう。

このところ、私の中で繰り返し鳴り響いている言葉がある。ボストンにある救援センターの壁にあつた言葉である。

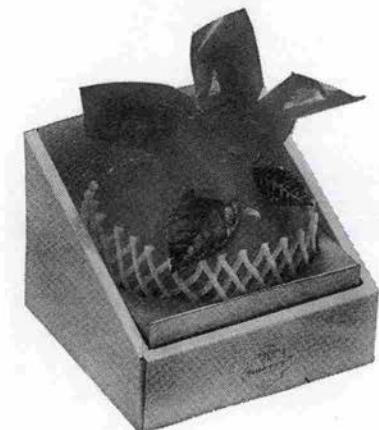
……私の前を歩かないでください。私はあなたののは、二月の第一週が過ぎてから。保育者や詩人や音楽関係者と、ささやかな支援コンサートを開く話が具体性を帯びてきた頃だった。三月。東京で開かれたコンサート会場には、遠く北海道や沖縄の人たちからのメッセージや義援金が寄せられた。

神戸の幼稚園の先生から、そんな電話が入ったのは、二月の第一週が過ぎてから。保育者や詩人や音楽関係者と、ささやかな支援コンサートを開く話が具体性を帯びてきた頃だった。三月。東京で開かれたコンサート会場には、遠く北海道や沖縄の人たちからのメッセージや義援金が寄せられた。

アップルクーヘン

Apple Kuchen

愛のシンボル、リンゴをまるごと1個。
甘い二人のハートに包んで、幸せを築きます。



化粧箱入り ￥1,600

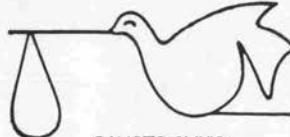


株式
会社

北欧の銘菓
ユーハイム・コンフェクト

本社 〒651-21 神戸市西区北別府2-1-2
TEL.(078)974-9756 FAX(078)974-9758
大阪営業所 〒558 大阪市住吉区苅田町7丁目12-19
TEL.(06)697-9435 FAX(06)697-4188

東京・名古屋・大阪・神戸



佐本
産科

ママといつしょに



赤ちゃん：山内 麻未ちゃん（平成7年6月8日生まれ）

お兄ちゃん：康平くん

パパ：利昭さん ママ：静代さん

「二人共、やさしくて明るい元気な子に育ってね」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

TEL 078 575 1024 (病室) FAX 078 576 9639

市バス上沢4停南スグ

●駐車場完備●



太田 敏郎
（国際港都・神戸復興展実行委員長
ノーリツ代表取締役会長）

□私の意見

ハイカラ博で 復興への勢いを

神戸の企業がそろって自慢の商品をポートアイランドの神戸国際展示場に持ち寄り、十一月三日から五日まで、「ハイカラ博」を開くことになりました。大震災から不死鳥のごとく美しくよみがえる神戸の元気なところを多くの人たちに見てもらい、これまで神戸に寄せられたご支援に感謝の気持ちを表したいと考えています。

復興へのはづみは、人の行き来が盛んになることだと思います。神戸ほどの街は世界中にもそんなにないという評判でした。山、坂道、港、異人館、たくさんの外国人、エキゾチックなたずまいのお店、世界中の料理、センスのいいファッショன。そんなものがいったん失われてしましましたが、私たちは再び取り戻し始めています。ハイカラがよみがえり始めているのです。それが多くの人々に来て見てもらおうという訳なのです。

以前から神戸はまとまりのいいところだと言われてきましたが、今回の「ハイカラ博」の実行委員長になつて改めてそのよさを痛感しました。私たちの呼びかけに応えて、非常にたくさんのお店が参加を申し出て来られました。ブースを二〇〇小間予定していたのですが三〇〇小間を越える希望があり、何とかやり繕りして二八〇小間を確保しました。主催者としてはうれしい悲鳴というところです。

ネーミングがとてもユニークだと好評をいただいています。若い人たちに焦点を当てようとは考えていたのですが、ハイカラというのには、お年寄りには分かつても、若い人たちにはどうかなという不安がありました。ところが「レトロぼくつて新鮮だ」という声を聞きます。これが神戸なのですね。古いものを大事にしながら新しい冒險をする、そんな気風がこの街にあります。私も海軍の経験がありますが、やはり世界を舞台にした港町のよさが震災に負けないで生かされているのだと思います。海外からの出展希望も殺到していて、調整に苦労していますが「ハイカラ博」が復興へ向けて高らかに鳴り響くラッパになるよう、成功へ向けて努力して行きます。



■浅井信雄対談シリーズ△15▽

都市で暮らす責任を知る

浅井

信雄

（△衆議院議員・新党さきがけ▽）

高見

裕一

（△衆議院議員・新党さきがけ▽）

浅井 高見さんは永田町の元印と言われていますが、そういうタイプの政治家になろうと最初から考えていたのですか。

高見 いや、自分としてはオーソドックスな、いわゆる

政治家としての政策立案の仕事を中心にやろうと思っていました。ところが、あそこの現状を見ていると、とてもじゃないけどおとなしくしとれんな、というところがあります。九月にタヒチに行ったことを「軽々に大蔵大臣が行くものじゃない」「国會議員がパフォーマンスをするべきではない」と言われる方がありますが、わたし

は、新しい政治家の姿は、どんどん行動して前に出て、国民的な支持があることにはちゅうちょなく自分の身体を使って表現する、それをパフォーマンスと言うなら言えという気持がありますね。

浅井 国民の政治への関心を喚起することが重要な課題になっていました。民主主義の基本ですから。それに、日本に何が必要なのか、ということを考えたときに、かなり大胆に改革しなければならないということが総論としてあります。

高見 わたしは、公共事業チエック機構を作る議員の会

（あさい・のぶお）1935年新潟県生まれ。東京外大卒。読売新聞ワシントン支局長など海外勤務10年以上。米国ジョージワシントン大、三菱総合研究所などの客員研究员を経て87年から現職。著書「アメリカ50州を読む地図」「民族世界地図」ほか。横浜市在住。

を作っています。いま日本のお金は、道路に5年間で七十六兆円、下水道に十七兆円使われている。ところがお金の使い道というのは、各省別に決まっていて、建設省はそのうちの六八%。その率は毎年〇・一%も動かない。残りの二割強が農林水産省、残りが運輸省、環境庁がほんの爪のアカ程。建設省の中でも、都市局にはいくつ、河川局にはいくつ、課、係に至るまで率が固定されています。これを変えることは至難の業なんです。

例えば長良川の河口堰のように、三〇年前に決まつた計画が見直されることなく莫大な費用が投下されているが、実際は水を使うあてがない。でもいろんな理屈をつけてやるんです。やめて、例えばマルチメディアに、福祉に、教育に環境にベンチャービジネスなぜ投資できないのか。そんなことやってる暇があつたら神戸の復興に投資してくれと言いたいところですが、それは許されない。省庁別の利権がガチガチに固まつていて、そこにたかる族議員というのが何百人もいて、予算の枠が動かない構造になつてしまつていて、このからです。

浅井 金融のごとたや規制緩和にしても、困難が生じてくると小出しに応対を取る。効果がないとまた小出しにやるということの繰り返しなんですね。どこかでその連鎖反応的なものを断ち切らなくては長期的に日本のプラスにならない。そういう議論は永田町では通用しにくいのでは?

高見 難しいところです。永田町で通用しにくいのか、わが国で通用しにくいのか。族議員を選出するのをやめてくれないかと有権者に言いたくなります。汚職、賄賂で捕まつた議員をなぜ選挙で通すのか。有権者も実は問われている。

浅井 確かにそうだが、有権者もゆつくり変わりつつあるのではないか。連立政権の誕生、参議院選挙、地方選挙を通して無党派層がものすごく増えたのは事実で、これが新しい時代の兆候ではないでしょうか。

高見 単に政治に対する無関心層が増えたのではなく、積極的なレジスタンスであるんだという、そういう無党層、棄権層であるように願いたいですね。



(たかみ・ゆういち) 1956年神戸市生まれ。追手門学院大中退。日本リサイクル運動市民の会代表。財団法人緑の地球防衛基金理事。93年兵庫1区から衆議院議員当選(日本新党)。94年新党さきがけ入党。衆議院災害対策特別委員会理事。著書「官邸応答せよ」など。

★永田町・霞ヶ関では「震災は終わった」



高見 裕一さん

浅井 高見さんは、神戸の被災地から永田町、官邸に向かってしきりに電話で機関銃を撃っていたということになっていますが、そのアピールに対して具体的な反応はないかがでしたか。

高見 鈍い以前の問題です。例えば、五十嵐官房長官個人は大変心配をして下さり、死にものぐるいで何かをしようという意志が電話の先から伝わってきた。たぶん村山首相も同じだったと思いますが、現実の機構というものは何ら動かなかった。特に防衛庁に電話をしたとき、県からの申請がないと出動できませんという一点張り。

高見 鈍い以前の問題です。例えば、五十嵐官房長官個人は大変心配をして下さり、死にものぐるいで何かをしようという意志が電話の先から伝わってきた。たぶん村山首相も同じだったと思いますが、現実の機構というものは何ら動かなかった。特に防衛庁に電話をしたとき、県からの申請がないと出動できませんという一点張り。

高見 国会議員は二〇人もなかった。多くは官庁の上級管理職でした。

高見 フォローしていないと同時に、永田町も、霞ヶ関も忙しいところなんです。分刻みというのはこんなものだというが分かったのは国会議員になってからです。ものを考へている暇がない、そういう環境にさらされていますと、去る者日々に疎しになってしまいます。官庁は目先のことで振り回されています。

高見 そういう現実があるとすれば、彼らに現在の神戸の状況を知らせ、理解してもらうために、被災地からの発信が大切ですね。

高見 どんどん発信して貰いたい。でないと忘れられてしまう。阪神大震災の復興というのは、市民が国家に対して忠誠心を持ちうるかどうか、日本人として安心していく良いのかどうかということが問われている。

高見 被災地から永田町に具体的にどのような発信が必要だと思いますか。

浅井 いま、新党さきがけの大震災復興対策本部長をなさっている。被災地の復興は非常に微妙な段階で、区画整理などの、特に土地に関連した復興事業になると、ものすごく反発も出るし調整が困難になる。こういう状況を見て、復興というのは基本的にどうあるべきなのか、その辺の哲学はいかがですか。

高見 まさしく哲学の問題だと思います。國の方から言ふと、すでに阪神大震災は終わったという風潮が永田町にあり、より強く霞ヶ関にある。神戸は裕福な自治体で

あつたじやないか、ここまでやれば神戸の人は自力で何とかやるだろうという声があることも事実です。震災半年目の神戸新聞の社説を切り抜き、二千部印刷し、全国議員、霞ヶ関の上級官僚に送ったところ「まだこんな状況なのか。よくわかりました」という反応が、五、六〇件ありました。逆に言えばそれをやってなければどうなっていたのか、ゾッとした。

浅井 被災地の問題について連立与党の中で意見は一致するのですか。

高見 議論があります。連立与党の中ではなく、地域でです。それと、野党が野党でないというのが非常に辛いところです。野党が、行政の作った枠組みの中でしかものを言わないんです。いつでも政権交代可能ということをアピールしたいと思うから、行政の言うことに根本的な疑問を呈さない。行政の側が引いた線は越えないという質問では本当にインパクトのある質問にはなりませんね。

議員のことといえば、例えば神戸市議会の議員が陳情に来られても、認識レベルが低いことが多く、取り合つ



浅井 信雄さん

てももらえないことがあります。市会議員さんは地元で陳情回数を誇つておられますがあれでは駄目ですね。浅井 具体的にどんな陳情が問題ですか。

高見 すでに政府、与党内で議論が済んでしまったことばかり持つてこられる。中央の動きが地方で分かっていないのでしょうか。あれもこれもというのではなく、優先順位をはっきりさせて計画を立ててほしい。勉強不足も見られます。例えば、海外住宅の輸入を促進したいから関税を下げるといつても、そこに至る過程の提案が全然ない。海外から建設技術者を招きたいから規制緩和をしろと言われているが、どういう技術を持った人が何人いるのかということが分からないと国の許認可はおりな

い。兵庫県には二万数千の職員がおり、神戸市にも一万余人の職員がいる。それだけの自治体が審議に耐える具体案を出せないのが残念です。

浅井 陳情のやりかたは重要だけど単純です。被災地はたくさんのことを行って欲しいが、何でも国が出来るのものでないというのも事実です。

高見 地域が主体的に自分たちはこうするんだという明確な意志表示をしないと国もまた動けない。それも事実だと言うのを理解して貰いたい。市民感情を国に訴えることも大事でしようが、市会議員はそれをどう具体化していくかを勉強してもらいたい。地震後七日目に西神のホテルに市会議員が一人ほど泊まっていたのには驚きました。聞くと、いま被災地に行つたら陳情を聞かされ、責められるだけなので、いまは地元には帰られへんねんと言つてました。わたしが避難所めぐりをしていると市民から「初めて議員の顔を見た」と言われて、この地域の市会議員は何してたのかと思いませんね。

浅井 そこが高見さんの高見さんたるところですね。

高見

本当に現場主義の議員が少ないので驚きます。震災後、二カ月経つて東灘のある避難所に行つたのですが「お前、今こうきやがって」と言わされました。わたしも体は一つ、わたしにとってここは百番目なんですと言つても聞いてくれない。

浅井 当時の被災者たちはピリピリしていましたね。わたしもあちこちの避難所を訪ねたが、入るときにはものすごく神経を使いました。

★都市に住む市民のルールを確立

高見 復興のことで言いつづらることは、市民と行政が対立の構造になってしまったこと。これは多くは市が悪い。しかし、市民の側にも責任はある。そのことをメディアが言わないのは非常に悪い。

浅井 都市計画の決定は震災後二カ月以内という期限が決められて、それを出すと猛烈な反発が起きた。これは

一種のたたき台だという含みで出せば良かったのに、これをのめと行政が押し付けた、と市民の側が受け取ってしまった。あれはまずかった。

高見 神戸に限らず、行政の側に市民不信というのが明確にあります。「行政—お上、お上—市民より一段上」いう意識が行政の中に明確にある。

浅井 今まで神戸市は、街づくりに自信を持つてきた。そういうことも関係しているのでしょうか。

高見 そうですね。ただ、時代の変化について行つていない。とにかく高層集合住宅を作ろうとする。「効率中心の街」はだれも望んでいないのに、望んでいると錯覚したのが大きな間違い。錯覚した理由は、二、三〇〇年前に作った計画をそのまま出そうとしたこと。急がないと彼らがモノを考え始める、考える暇を与えてやつつけよう、これが行政ですから。

浅井 彼らというのは市民ですか。

高見 ええ。行政の欠点もありますが、半面、市民の側も公共とは何かという意識がな過ぎた。それは都市に住む市民のあるべき姿ではありません。

浅井 都市に住むというのはそれなりのルールがあるが、その認識が少し欠けていた感じがする。

高見 一戸建ての大きな家に住むなら郊外へ出る、都心に住みたかったらマンション、アパートにしか住めないけれどそのかわり、あらゆる情報、文化の利便を受けて住むことが出来る。これは都市に住むメリットとデメリット。世界の都市全て同じです。都市規制が日本ほど緩いところは無いですよ。権利ばかりが前に出て、義務がなおりになつていています。いまの民主主義状況を象徴的に表した出来事だと思います。

浅井 とくに公共の認識の問題ではよくある話ですが、自分の庭のゴミを道路に掃き出す、道路が公共の財産だとは考えない、というのが問題の核心を突いていると思います。

高見 民主主義とは好きなことを勝手にしてええこつち

やと思っている人が多い。政治家してみてよく分かりました。

浅井 高見さんはリサイクル運動から地球環境までエコロジー問題に深くかかわっておられますね。

高見 私が議員になった意味はそれなのです。武村正義氏から「地球環境待ったなしやから助けてくれ」というラブコールをいただいて出ました。そこをやる政治勢力作りが夢なんです。そこに行く経過ポイントとして民主リベラルという政治家グループ作りを考えています。少なくとも反利権、非宗教、多様な価値観を認め、目先の利益誘導政治に堕落しないために自民や新進ではない政治勢力が必要だと思います。

浅井 環境問題は目に見えにくいので政治家の将来を賭けるのはなかなか困難だと思いますが。

高見 環境問題は人の心をつかみにくく、ほとんどの人は目先の利益を追うんですね。「あんた、地球をこのままにしどったら二〇年後に死にまつせ」と伝えて、「死ぬん二〇年後やろ、そんなことより今の給料が問題やねん」と言われたら返す言葉がなくなる。

浅井 人間は理性を排除することがあります。被災地の復興にしても「元と同じ街を作つたら危ないんだよ」と言つても、一部の被災者の方は「危なくともいい、昔から住んでいた所にいたい」と言われると、これに対抗する論理はないんです。

★みんなに世界を作る責任

高見 ある街づくりの座談会に出たのですが「お前らがこんな大きな公園作ると言うから家を建てられなくなるんじや」と怒っている人がいる。市の担当者に公園の大きさを聞くと〇・八ヘクタールだという。防災公園としてはちっちゃなものですね。どちら、ステテコで歩けるような街がええんやと言う。大きな道路一本、公園一つあれば火が止まり、たくさん的人が焼死せずにすんだのになぜ分らないのかと問うと「地震はもう当分ない」と

言う。むちやくちやですよ。気持ちは分からんではないのですが…。私も以前、区画整理で二五%を提供し、建て直しましたが、おかげで母は、家の倒壊による死から逃れることができました。街は住民の協力がなければ作れないし、減歩がいやなら街に住むべきではない。街は公共の、グローバルな資産なんですから。

浅井 日本人が土地にこだわるというのも分かりますが、土地を中心にして回ってきた国ですから一種の宗教、「土地真理教」なんですよ。しかし、これだけの犠牲が出たので土地に対するこだわりはかなり変化していると思う。土地に関する改革は戦争、クーデター、革命でもないとやりにくかった。震災だってそれに匹敵するようなチャンスだと思う。

高見 私もそう思うのですがそれを言うと市民の感情的反発もある。辛いところですね。

浅井 公開の場で区画整理の話をすると何を言つても反発を買う。それぞれ事情があるので当然なのでしょうが、目先のことと判断するのか、将来のために判断するのかそこが大切だと思うのです。



地球環境、震災復興で議論する高見、浅井さん

高見 民主主義は自分たちの世界を作り、責任を自分が負っているということ、これを忘れてはいけない。

浅井 タヒチへ核実験抗議に行かれ、フランスから反発を受けました。が、私はそれでも良いと思つています。しかし同時に日本はフランスとの関係を感情的に

こじらせてはいけないというのも事実です。例えば日米自動車問題でアメリカが数値目標を迫つて来たとき、フランスを含めたヨーロッパの国々は日本を支持した。今回も日本政府は、フランスに特使を派遣して核実験に抗議すると同時に、今後の友好関係を壊さないように話し合つたことは良いことだと判断しています。対外関係は、ひとつのこととワットと走ると非常に危ない。いろんなところに目配りしながら進めていかなければならぬと思います。

高見 その言葉をフランスに投げかけなくてはいけないと思う。世界市民の世論の反発をここまで受けても強行しなければならない実験なのか。人間の倫理観は進化するものだと思うのですが、戦争、武器輸出が犯罪であるという時代を招き寄せなければならない。そのためにも政治も市民も努力しなければならない。いまこそ国対国の哲学を競う日が来たのではないか。国が持ち合わせている哲学を、人類サバイバルへの向けて討論する日が来たんじゃないかなと受けとめています。

浅井 そういう方法でうまくいくとお考えですか。日本の政治については高見さんは悲観的でしたが、わたしは国際政治に悲観的です。フランスには「みんなに賞賛されながら死ぬよりは、悪口を言われて生きていたい」という気風が原点にありますね。マキヤベリズムと言つてもいいような考え方です。

高見 マキヤベリズムの権化みたいなものです。差別思想がヨーロッパの国の中でも群を抜いて激しい国ですから、今回の行為の底にも脈々とある。ですがそこであきらめてしまうと厭世感の塊になる。人々を厭世感の塊にさせないのが政治の仕事と思っているので、私はどんな状況になつても核実験反対、地球環境の改善と保護を言い続けたいと思います。

浅井 永田町に対しても有権者が厭世感を持たないよう配慮をいただきたいですね。

第7回 兵庫のまつりーふれあいの祭典

小川はまつりフェスティバル'95

“大好きなまちだから
もっと・・ ひょうご”

10月28日(土)・29日(日)

共に 10:00～

県立明石公園

サンテレビ生中継

10/28(土)13:00～16:00



■ふれあいカーニバル

[10/28(土) 13:00～16:00・陸上競技場]

- ・総合プロデュース 内海 重典 (宝塚歌劇団名譽理事・演出家)
- ☆「五木ひろし “ふれあいコンサート”」
- ☆兵庫県警察音楽隊、須磨ノ浦女子高等学校等によるマーチング
- ☆武庫川女子大学体操部の体操演技
- ☆島根県の石見神楽などの伝統芸能
- ☆神戸中華文学校による中国龍おどり ほか

■ふれあいステージ

[10/28(土) 10:50～16:00 10/29(日)10:00

～16:00・西芝生広場特設ステージ]

(10/28) ☆宝塚音楽学校生徒コーラス

(10/29) ☆高石ともや・クライブ ☆お母

さんといっしょ(NHK)・にこにこぶんショー

(両日) ☆伝統芸能 ☆子供たちのモダンダン

ス、ジャズダンス ☆リサイクルオーケーション

☆県立西宮、須磨東高校演劇部の震災テーマ創

作劇など



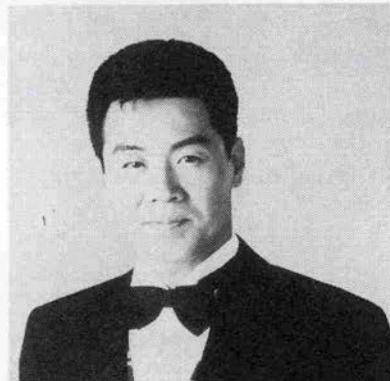
にこにこぶんショー

© NHK-E.D. NHK-S.W.
スタジオじゃびほ

交通案内

●JR西日本「明石駅」下車スグ●山陽電鉄「山陽明石駅」下車スグ

※会場には駐車場がありませんので、ご来場の際には必ず電車・バスをご利用ください。
また、会場内では大変な混雑が予想されますので、二輪車でのご来場もご遠慮ください。



五木ひろし

■ひょうごフェニックスプラザ

[10/28(土)・29(日)10:00～16:00・西芝生広場]

☆もっと・・ ひょうご館

・復興ビジョン映像や復興ビジョンパネルの紹介

☆復興シンボルフラワーモニュメント

・未来への希望にみちたフラワーモニュメント

☆HYOGO AID'95 by ART (阪神・淡路大震災復興オリジナル作品展、ポスター展)

・原画展 10/28～10/31・明石商工会議所 7Fホール

・ポスター展 10/28～10/29・西芝生広場

・横尾忠則、白髪一雄、元永定正など日本を代表する著名な画家等の「復興」をテーマとした原画展とポスター展及びポスター販売会

■第17回兵庫県民農林漁業祭

[10/28(土)10:00～16:00 10/29(日)10:00～15:00・第2野球場]

☆ふるさと物産フェアコーナー (試食・試飲コーナーもいっぱい!)

☆農林水産業再発見コーナー など

お問い合わせ

ふれあいの祭典実行委員会事務局

☎ (078) 341-7711 (代)

神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県第2号館

市民と共に生きている 三田市立図書館の魅力

嶋田 勝次 （関西学院大学教授）

最近三田市へ来るようになった

のは、平成七年春に神戸大学を定年退職してすぐに関西学院大学の八番目の総合政策学部が新しく三田の地に設置され、そこに通うことになったからである。その上このたびの震災で自宅がつぶれて建て直すまでの仮りの住まいも求めていることにもよっているのである。

この仮り住まいの家から十分程ゆっくりと坂道を歩いたところにこの三田市立図書館がある。

平成二年三月にオープンというから五年は経過して、豊かなコミュニティ施設として地域に定着し

ている。

時々この図書館へ出掛けるが、いつも通り大学への乗換駅の神戸電鉄横山駅のすぐ横に立地しているので、便利なところである。

先日家の引越し準備のため年賀状の整理をしていて、畏友故増田正和氏のものが出てきた。それはこの図書館の広場に設置された氏の彫刻の絵葉書であった。

この彫刻の題名が「出会いの座」とあったので、出会いの気分いっぱいになつたのは、やはりこの石のざぶとんにすわつて豊かな気分にひたつているからかなあ? と思しながらも、もう少し夕暮れになつて飲みのものでも持参していればと思った。そしてここでのんびり語り合っていることがよい供養になつているのではないかと勝手になつた。

図書館は市民と共に生きている、といつても、どう利用されているか。土曜日と日曜日の屋下が

三田市立図書館 日本国書館協会建築賞優秀賞を受賞。コミュニティ施設として市民に愛されている。



増田正和作「出会いの座」
石のざぶとんに寝ころぶ子供には、
どんな出会いが待っているのだろう

手に思っている。

この図書館の設計監理は日建設の由だということだけに一安心して見学でできるし、利用させてもらえると思っている。

建築は一、二階建の寄棟の単純な屋根の形をしていて、奥に展示ギャラリーを持つものである。室内はほとんど一般開架書架と児童開架コーナーから成り立っていて、広く明るい空間構成になっている。

先日この図書館年報の平成五年度版をいただいた。ここに開架書庫が十万冊収容可能とあったが、それよりも平成四年五月に延べ貸出冊数百万冊達成であるし、その前年に第七回日本国書館協会建築賞優秀賞を得ている。もっと見ていると、平成六年一月には延べ貸出冊数二百万冊達成であるから、市民の図書館活動の魅力はどこから生まれてくるのだろうかと思つた。

図書館は市民と共に生きている、といつても、どう利用されているか。土曜日と日曜日の屋下がりにのんびりと訪ねてみた。もう利用者いっぱいであつただけではなく、増田先生の彫刻に子供がたわむれて楽しんでいたり、でんでん虫が高いところを動いている様子が注目している姿を見て嬉しくなった。

神戸へ見学 みんなで招こう

あの日の朝、支店長室から見た光景は何とも悲しいものであった。視野に入るほんどのビルが崩壊…。そして数ヶ月を経て秋風が立つころ、オリエンタルホテルの取り壊し作業が始まっている。これで旧居留地のビル解体は終わるのであろうが、ここが昔日の賑わいを取り戻すのは果たしていつのことであろうか。いずれにせよ街全体を含め、復興に大変なエネルギーが必要なことは改めて感じざるを得ない。



日本銀行神戸支店長
遠藤勝裕の

ではこの復興へのエネルギーの具体的な中身は何であろうか。これはヒト、モノ、カネに尽きるが、提供者は国や県、市等自治体であるのは当然ながら、忘れてはならないのが我々市民全員である。ただ昨今の議論をみていると各々が自らの立場を守る論理のみをまず優先しているように思われてならない。

先日の神戸新聞に「新幹線もあるし空港もある。過疎地に比べれば神戸のインフラはもう十分」といった國の発言が載っていたが、これなどはその典型である。街の活性化はハード面のインフラ整備のみによるものではなく（これとてまだ不十分だが）、そこで生きる人達の生活基盤の確立が不可欠であることは論を待たない。ソフトの充実、回復を急がなくては復興は

おぼつかない、ということであり、そのためには国を含めた当事者全員が復興へ向け具体的に動く、参加する姿勢を示すことが大切である。そうした姿勢がソフトの回復を早め、悪循環的な縮小不均衡に陥りつつあるこの街を救うことになる。

国や自治体はともかく、市民レベルでの復興へ、といふと「そんな難しいことは偉い人達に任せよう」との声が出そうであるが難しく考えることはない。誰にでもできるのである。例えば神戸に人を集めること、これなどは「観光客誘致市民運動」みたいなことを展開すればよい。市民一人が一人の客を呼べば一五〇万人の客がくる計算になる。もちろん老人も赤子もいるためそちらはなるまいが、神戸市民で全国に訴える姿勢が大切ということである。

「そりは言つても何を売り物にすればよいのか、神戸の魅力、宝はくずれてしまった」。そんな声が聞こえそうである。でもここは開き直るしかない。崩れた宝をみせるのである。それを新しい宝とする発想の転換が必要である。もうその時期にきている。地震災害の実態を見て見んでもらう。すなわち「見物」ではなく「見学」を強調し、そのことが神戸に対する最大の支援であることを声を大にして叫ぶのである。

日銀では防災をテーマにした全国会議を神戸で開催したが、参加者殆どが「百聞は一見に如かず」としてはならないが神戸を見せておくべきとの感想を漏らしていた。大震災に遭遇した成々の貴重な体験、これは宝である。そう、神戸には間違ひなく人を呼べる宝がある。オリックスという新しい宝もある。皆で自信をもって人を呼ぼう！ 宝を生かそう！

△えんどう・かつひろ／昭和二〇年生まれ。四三年早大政経学部卒。日銀へ。以来東京を中心と北九州、名古屋、神戸、札幌、青森と北から南まで日本縦断。引っ越しの経験豊富。灘区の社宅で震災に遭遇。金融面での混乱回避に奔走。目下「神戸復興支援！ 何かを支店会」を結成するなど、経済復興に向け銳意活動中。

経済復興へのキーワード／連載3

ひとり“控室”

書類に埋もれて

神戸市役所一号館、二十六階に、我が無所属議員控室がある。

他の部屋には、○○議員団、だの、会派の名称そのものが書かれているのに、なんで、無所属だけが控室やねん。

今日も今日とて、この控室で、私は書類を見ている。なんとおびただしい紙の量。



小山乃里子の

きだつた。

横書きの文章など、大学卒業以来なのだ。

百歩譲って、横書きの書類をけん命に読むとする。

と、必ず、わけのわからないカタカナ文字に出くわす。

「インフラ」「インナーシティ」「リストラクチャリング」エトセトラ。

「マルチメディア文化都市をめざし」と書かれてる、およそイメージがふくらまない。インフレは知つてはいるが、インフラとはなんぞや。英和辞書をひく前に、これに頼ろう。

「日本語になった外国語辞典」。ありました。経済活動の基盤となる、交通・運輸・港湾などの施設。なるほど。意味がわかれれば、カタカナ四文字の方が簡単かもしれない。

震災で、ガス、水道、電気がストップして「ライフルライン」という言葉が市民権を得たように、「インフラ」もそのうち、誰でも口にするようになるのだろうか。

などと考えていたら

「先生、今度の市会の資料です」

ポンと机の上に置かれた冊子。

「会議事件（平成七年第三回定期市会）」決算第一号、平成六年度神戸市下水道事業会計決算。

決算八号まで、この調子で各事業の会計決算が並び、そのあと、予算が五項目。

これは見事に、数字と漢字のオンパレードだった。こうやつて、目が疲れるから、議員の部屋は、ながめのいい所にあるのかもしれない。

その上に、例えば「神戸市降雨情報システムの使用

開始」だとか「オリックス優勝記念NEW Uラインカード発売」のお知らせが届く。

これらの、冊子、書類は、例外なく横書きである。

毎日読む、新聞、雑誌、単行本、そして、放送においての、ニュースやCMの原稿、これは例外なく縦書

（△こやま・のりこ／ラジオ関西アナウンサーを経てフリー／パソナリティー。毎日放送「ごめんやす馬場草夫です」を二十二年間担当。ラジオ関西で「ビバタカラジェンヌ」も。神戸市会議員（無所属）。東灘区在住。）